

法令及び定款に基づく インターネット開示事項

連 結 注 記 表 個 別 注 記 表

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

豊和工業株式會社

「連結注記表」及び「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第17条の規定に基づき、当社ホームページに掲載することにより株主の皆様に提供しております。

連 結 注 記 表

I. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

1. 連結の範囲

(1) 連結子会社の数及び連結子会社の名称

連結子会社	6社
	中日運送（株）
	豊友物産（株）
	（株）豊苑
	ホーワマシナリーシンガポール（株）
	丰和（天津）机床有限公司
	（株）セキュリコ

(2) 非連結子会社の名称

非連結子会社	ホーワスカメシンインドネシア（株）
（連結の範囲から除いた理由）	非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用

(1) 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の数及び会社の名称

持分法適用関連会社	0社
-----------	----

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称

非連結子会社	ホーワスカメシンインドネシア（株）
関連会社	（株）永井鉄工所
（持分法を適用しない理由）	各社の当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等

連結子会社のうち丰和（天津）机床有限公司の決算日は12月31日であります。連結計算書類の作成に当たっては、同決算日現在の計算書類を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(ア) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(イ) デリバティブ

時価法

(ウ) たな卸資産

① 商品及び製品、仕掛品

主として個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

② 原材料及び貯蔵品

主として総平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(ア) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、以下の通りであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 4～12年

(イ) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(ウ) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

(ア) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(イ) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に充てるため、将来の支給見込額のうち、当連結会計年度の負担額を計上しております。

(ウ) 工事損失引当金

工事契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末工事契約のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異、過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による按分額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による按分額を費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

③小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

(ア) 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

(イ) その他の工事

工事完成基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法を適用しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

(ア) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用しております。

(イ) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約

ヘッジ対象：外貨建債権・債務、外貨建予定取引

(ウ) ヘッジ方針

外貨建取引に係る為替変動リスクを回避する目的で、輸出入等に伴う実需の範囲内で為替予約取引を行っており、投機目的の取引は行わない方針であります。

(エ) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額の比率により評価しております。

ただし、ヘッジ手段の取引内容とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して為替変動又はキャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定することができる場合には、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、7年間の均等償却を行っております。

(8) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

Ⅱ. 表示方法の変更に関する注記

(連結損益計算書)

前連結会計年度まで営業外収益の「雑収益」に含めて表示しておりました「助成金収入」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より、区分掲記しました。

なお、前連結会計年度の「助成金収入」は1百万円であります。

Ⅲ. 会計上の見積りに関する注記

繰延税金資産

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

繰延税金資産（投資その他の資産 その他） 9百万円

繰延税金負債 157百万円

（注）同一納税主体の繰延税金資産・繰延税金負債は相殺表示しております。

(2) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額の算出方法

繰延税金資産は、入手可能な将来の課税所得の見積りからその回収可能性が見込めないと考えられる場合には、評価性引当額の計上により繰延税金資産の金額を減額しております。

(3) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

当社グループは、新型コロナウイルス感染症が当社グループに及ぼす影響及び当感染症の収束時期を明確に予測することは困難であると考えておりますが、翌連結会計年度（2022年3月期）の一定期間にわたり当感染症の影響が継続するという仮定に基づき、繰延税金資産の回収可能性に関する会計上の見積りを行っております。

(4) 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

繰延税金資産の認識は、将来の事業計画に基づく課税所得の発生時期及び金額によって見積っております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度の連結計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

IV. 会計上の見積りの変更に関する注記

（耐用年数の変更）

当社が保有する火器事業部の機械装置については、従来耐用年数を7年として減価償却を行ってきましたが、銃腔加工に係る大口の設備投資が発生することを契機に、実際の使用年数などを見直した結果、従来の耐用年数よりも長期間使用する見込みであることが明らかとなったため、当連結会計年度より、耐用年数を12年に変更することといたしました。

なお、この変更により当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ34百万円増加しております。

V. 追加情報

（新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて）

新型コロナウイルス感染症の拡大は、経済や企業活動に広範な影響を与える事象であり、現時点で当社グループに及ぼす影響及び当感染症の収束時期を明確に予測することは困難ですが、翌連結会計年度（2022年3月期）の一定期間にわたり当感染症の影響が継続するという仮定に基づいて、当連結会計年度（2021年3月期）の固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性に関する会計上の見積りを行っております。

Ⅵ. 連結貸借対照表

1. 受取手形裏書譲渡高	179百万円
2. 電子記録債権譲渡高	3百万円
3. 有形固定資産の減価償却累計額 (減損損失累計額を含む)	23,038百万円
4. 担保に供している資産及び担保に係る債務	
(1) 担保に供している資産	
建物及び構築物	1,671百万円
機械装置	564
工具、器具及び備品	129
土地	84
計	2,450
(2) 担保に係る債務	
短期借入金	273百万円
長期借入金	1,157
計	1,431

5. 仕掛品及び工事損失引当金の表示

損失が見込まれる工事契約に係る仕掛品と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る仕掛品のうち、工事損失引当金に対応する額は10百万円であります。

Ⅶ. 連結株主資本等変動計算書

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数

(単位 千株)

株 式 の 種 類	当連結会計 年度期首株式数	当連結会計 年度増加株式数	当連結会計 年度減少株式数	当連結会計 年度末株式数
発行済株式				
普通株式	12,548	—	—	12,548
合計	12,548	—	—	12,548
自己株式				
普通株式(注)	163	0	12	151
合計	163	0	12	151

(注) 1. 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 自己株式の数の減少は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少12,888株及び単元未満株式の買増請求による減少98株であります。

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基 準 日	効力発生日
2020年6月25日 定時株主総会	普通株式	247	20	2020年3月31日	2020年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

2021年6月25日開催予定の定時株主総会決議による普通株式の配当に関する事項

決 議 予 定	株式の 種 類	配 当 の 原 資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基 準 日	効力発生日
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	247	20	2021年3月31日	2021年6月28日

VIII. 金融商品

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、販売計画、設備投資計画に基づき、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融商品で運用し、また、運転資金及び設備資金を銀行借入により調達しております。

営業債権である受取手形、売掛金及び電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されているため、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を必要に応じて把握しております。

また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、債権額及び為替相場の状況により、先物為替予約を利用してヘッジしております。

有価証券及び投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されているため、四半期毎に時価の把握を行っております。

営業債務である買掛金及び電子記録債務は、そのほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。

外貨建ての営業債務は、為替の変動リスクに晒されておりますが、外貨建ての営業債権と同様の方法によりリスクの低減を図っております。

借入金のうち、短期借入金は主に運転資金に係る資金調達であり、長期借入金及び社債は運転資金及び設備資金に係る資金調達であります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引及び通貨オプション取引であり、投機的な取引は行わない方針であります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。（（注）2参照）

（単位 百万円）

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	3,462	3,462	—
(2) 受取手形及び売掛金	5,536	5,536	—
(3) 電子記録債権	3,218	3,218	—
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	2,875	2,875	—
資 産 計	15,093	15,093	—
(1) 買掛金	2,322	2,322	—
(2) 電子記録債務	381	381	—
(3) 短期借入金	1,200	1,200	—
(4) 長期借入金(1年内返済予定を含む)	2,953	2,952	△1
負 債 計	6,857	6,856	△1
デリバティブ取引（*）			
ヘッジ会計が適用されているもの	3	3	—
デ リ バ テ ィ ブ 取 引 計	3	3	—

（*） デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（）で表示しております。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金(1年内返済予定を含む)

これらの時価は、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引の時価は、取引先金融機関等から提示された価格によっております。

2. 非上場株式等(連結貸借対照表計上額310百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

IX. 賃貸等不動産

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の連結子会社では、愛知県その他の地域において、賃貸施設を所有しております。

2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位 百万円)

連 結 貸 借 対 照 表 計 上 額	当 連 結 会 計 年 度 末 の 時 価
838	5,308

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については、社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、又は不動産調査報告書に基づく金額を合理的に調整した金額によっております。ただし、直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。その他の物件については指標等を合理的に調整した金額であります。

X. 1株当たり情報

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 1,299円91銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 78円18銭 |

XI. 記載金額は百万円未満の端数を切捨てて表示しております。

個 別 注 記 表

I. 重要な会計方針

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

時価のあるもの

事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) デリバティブ

時価法

(3) たな卸資産

① 商品及び製品、仕掛品

個別法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

② 原材料及び貯蔵品

総平均法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、以下の通りであります。

建物 3～50年

機械及び装置 4～12年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に充てるため、将来の支給見込額のうち、当期の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異、過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による按分額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による按分額を費用処理しております。

(4) 工事損失引当金

工事契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末工事契約のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

(1) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

(2) その他の工事

工事完成基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法を適用しております。

5. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約

ヘッジ対象：外貨建債権・債務、外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

外貨建取引に係る為替変動リスクを回避する目的で、輸出入等に伴う実需の範囲内で為替予約取引を行っており、投機目的の取引は行わない方針であります。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額の比率により評価しております。

ただし、ヘッジ手段の取引内容とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して為替変動又はキャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定することができる場合には、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

6. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る会計処理の方法

計算書類において、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の貸借対照表における取扱いが連結計算書類と異なっております。

7. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

Ⅱ. 会計上の見積りに関する注記

繰延税金資産

- (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

繰延税金負債 138百万円

(注) 繰延税金資産・繰延税金負債は相殺表示しております。

- (2) 当事業年度の計算書類に計上した金額の算出方法

繰延税金資産は、入手可能な将来の課税所得の見積りからその回収可能性が見込めないと考えられる場合には、評価性引当額の計上により繰延税金資産の金額を減額しております。

- (3) 当事業年度の計算書類に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

当社は、新型コロナウイルス感染症が当社に及ぼす影響及び当感染症の収束時期を明確に予測することは困難であると考えておりますが、翌事業年度（2022年3月期）の一定期間にわたり当感染症の影響が継続するという仮定に基づき、繰延税金資産の回収可能性に関する会計上の見積りを行っております。

- (4) 翌事業年度の計算書類に与える影響

繰延税金資産の認識は、将来の事業計画に基づく課税所得の発生時期及び金額によって見積っております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌事業年度の計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

Ⅲ. 会計上の見積りの変更に関する注記

(耐用年数の変更)

当社が保有する火器事業部の機械装置については、従来耐用年数を7年として減価償却を行ってきましたが、銃腔加工に係る大口の設備投資が発生することを契機に、実際の使用年数などを見直した結果、従来の耐用年数よりも長期間使用する見込みであることが明らかとなったため、当事業年度より、耐用年数を12年に変更することといたしました。

なお、この変更により当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ34百万円増加しております。

Ⅳ. 追加情報

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症の拡大は、経済や企業活動に広範な影響を与える事象であり、現時点で当社に及ぼす影響及び当感染症の収束時期を明確に予測することは困難ですが、翌事業年度（2022年3月期）の一定期間にわたり当感染症の影響が継続するという仮定に基づいて、当事業年度（2021年3月期）の固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性に関する会計上の見積りを行っております。

V. 貸借対照表

1. 受取手形裏書譲渡高	47百万円
2. 電子記録債権譲渡高	3百万円
3. 有形固定資産の減価償却累計額 (減損損失累計額を含む)	22,378百万円
4. 関係会社に対する短期金銭債権	424百万円
5. 関係会社に対する短期金銭債務	1,134百万円
6. 関係会社に対する長期金銭債権	460百万円
7. 担保に供している資産及び担保に係る債務	
(1) 担保に供している資産	
建物	1,470百万円
構築物	203
機械及び装置	564
工具、器具及び備品	129
土地	84
計	2,452
(2) 担保に係る債務	
短期借入金	273百万円
長期借入金	1,157
計	1,431

VI. 損益計算書

1. 関係会社に対する売上高	551百万円
2. 関係会社よりの仕入高	831百万円
3. 関係会社との営業取引以外の取引高	49百万円

VII. 株主資本等変動計算書

自己株式の種類及び株式数

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式 151,179株

VIII. 税効果会計

繰延税金資産の発生は、賞与引当金等であり、繰延税金負債の発生は、その他有価証券評価差額金等であります。

IX. 関連当事者との取引

子会社等

種 類	会 社 等 の 名 称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取 引 内 容	取 引 金 額 (百万円)	科 目	期 末 残 高 (百万円)
連 子 結 子 会 社	中 日 運 送 株 式 会 社	所有 直接 100%	当社製品の 荷造、輸送 資金の借入 役員の兼任	資金の借入 (注) 1	500	短期借入金	500
				借入の返済	500		
				利息の支払 (注) 1	1	流 動 資 産 (その他)	0
連 子 結 子 会 社	株 式 会 社 豊 苑	所有 直接 100%	緑化及び造園 資金の借入 役員の兼任	資金の借入 (注) 1	350	短期借入金	350
				借入の返済	350		
				利息の支払 (注) 1	0	流 動 資 産 (その他)	0
連 子 結 子 会 社	株 式 会 社 セ キ ュ リ コ	所有 直接 100%	現金輸送車等 特殊車両の開発、 製造、販売 資金の貸付 役員の兼任	資金の貸付 (注) 1	55	流 動 資 産 (その他)	40
				貸付の返済	200		
				—		投資その他 の 資 産 (その他) (注) 3	119
				利息の受取 (注) 1	0	未 収 入 金	0
連 子 結 子 会 社	丰和(天津)机床 有 限 公 司	所有 直接 100%	当社製品の販売 役員の兼任	当社製品の 販売 (注) 2	187	売 掛 金	269
						投資その他 の 資 産 (その他) (注) 3	341

(注) 1. 資金の借入及び貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。なお、担保は提供及び受入しておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して交渉の上で決定しております。

3. 株式会社セキュリコの債権に対し、81百万円の貸倒引当金を計上しております。また、当事業年度において25百万円の貸倒引当金繰入額を計上しております。

丰和(天津)机床有限公司の債権に対し、45百万円の貸倒引当金を計上しております。また、当事業年度において16百万円の貸倒引当金繰入額を計上しております。

X. 1株当たり情報

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 1,167円45銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 70円88銭 |

XI. 記載金額は百万円未満の端数を切捨てて表示しております。